

第2回「ながやま子どもの水辺協議会」を開催しました!!

2名のオブザーバーを迎え、役割と活動内容を具体的に協議

第2回「ながやま子どもの水辺協議会」は、前回と同様、川のみさと交流館「さらら」の2階・会議室において、平成16年12月9日(木)に開催されました。

今回の主旨は、第1回目の意見交換をふまえた上で、本協議会の働きと役割を明確にすること、そして、その活動内容について長期的な視点でより具体的に話し合うことです。また、オブザーバーとして永山小学校のPTA役員を務められている梅野由紀子さんと、北海道教育大学旭川分校4年生の相内まゆみさんをお迎えし、小学生の子どもを持つ親御さんの立場や若い世代からの率直なご意見をうかがいました。



2回目となった「ながやま子どもの水辺協議会」

永山新川の空間利用計画説明と魚類調査結果の報告

意見交換に入る前に、活動拠点となる永山新川の空間利用計画(基本理念及び基本方針)の説明と魚類調査結果が、概ね次のように報告されました。

永山新川の空間利用計画

【基本理念】

- ①地域の活性化を促し、地域との連携による河川整備を行う。
- ②自然との共生を図り、うるおいのある河川環境の創造を図る。
- ③人々が四季を通じてふれあえる川づくりを行う。

【河川空間整備(ゾーニング)】

永山新川全体を4つにゾーニング。(裏面「永山新川の空間整備(ゾーニング)」を参照)

永山新川の魚類調査

【調査地点・時期・回数】

辰永橋下流、第2北永橋下流、第4北永橋上流の3カ所まで平成15年7月・8月、平成16年7月・8月の2年・計4回にわたって実施。

【調査結果】

- 2年間でフクドジョウ、ウグイ、ヤマベなど7種14科の魚類を観測。水生植物に巣をつくり産卵するキタノミヨなども確認。
- 丸々と太ったヤマベやニジマスが観測されたことから、餌が豊富なことがわかる。

裏面へつづく>>

「ながやま子どもの水辺協議会」とは

「子どもの水辺」再発見プロジェクトを推進し、永山新川に子どもたちにぎわう豊かな水辺をつくらせようと発足しました。旭川市教育委員会や地元小学校関係者、河川管理者、地元NPO法人、永山の地域関係者などが参加して委員を構成しています。



「子どもの水辺」再発見プロジェクトとは

国土交通省(河川局)・文部科学省・環境省が連携し、農林水産省がサポートして進めている取り組みです。子どもたちの水辺の利用を促進し、地域における体験活動の充実を図ろうとするもので、全国各地の河川・湖沼などを対象に「子どもの水辺」の選定や登録、支援などが行われています。

道内でもいくつかの団体が登録し活動していますが、旭川市内では本協議会が初めての登録団体となる予定です。



出席者一覧

今回の協議会には、以下の方々が出席されました。

●委員

(敬称略)

所属	職名	氏名	備考
旭川市教育委員会 生涯学習課	課長	清水 蓮雄	欠席
旭川市立永山東小学校	校長	金子 俊明	
旭川市立永山小学校	PTA会長	太田 寛	
旭川開発建設部 治水課	課長補佐	羽山 英人	
旭川開発建設部 旭川河川事務所	計画課長	桑原 誠	
旭川市土木部公園みどり課	主査	沖本 亨	欠席
財団法人 旭川河川環境整備財団	専務理事	富所 博信	
NPO法人 水と緑のみさと永山を育てる会	事務局長	佐藤 佳明	
元永山新川水辺づくり意見交換会	会長	加藤 雅規	座長
永山第二地区市民委員会	環境衛生部長	山崎 芳子	欠席
児童クラブ ホクホク	代表	谷地元 雄一	
永山小学校PTA		梅野 由紀子	オブザーバー
北海道教育大学旭川校 教員養成課程 4年生		相内 まゆみ	オブザーバー

●事務局

(敬称略)

所属	職名	氏名	備考
旭川開発建設部 治水課	河川環境管理官	中山 仁	
〃	河川計画係主任	村上 隆志	
〃	河川計画係	公平 圭亮	
〃	河川環境係長	神保 章生	
〃	河川環境係	上畑 一樹	
旭川開発建設部 旭川河川事務所 計画課	専門職	竹森 政彦	
〃 第1工務課	第1工務係	野村 佐和美	
永山新川管理センター(川のみさと交流館さらら)	館長	帯川 猛美	
財団法人 旭川河川環境整備財団	事務局長	佐々木 忠義	司会
〃		野々山 裕子	
株式会社 北海道ジェイ・アール・エージェンシー	ディレクター	小椋 尚希	